



いろがみのくだもの

南伸坊

ポーションとしてほかに「こ」は何も覚えていないのに、小学校で初めて描かされた、ちぎり絵のことだけはクッキリ覚えている。

白い画用紙と、正方形のいろがみが一枚、一枚が赤で一枚はオレンジ色である。それに緑色の紙テープを三センチくらいの長さに切ったものが机の上に配られている。

「こいひすかあ、これで今日はりた」とみかんの絵を描いてみまじょらう!!!
「こいひすかあ意味合いのことを、おでこの広い女の先生が言っている。」

黒板には、おそらくその女の先生が、つくしたらしい「りん」とみかんの「お手本の絵が、画鋏でとめてある。赤いろがみでりんごを、オレンジのいろがみで、それよりふたまわりくらい小さいみかんが、ちぎってあって、それがヤマト糊で見せている。

貼りつけてある。

緑のテープは、みかんのへたと「りんご」の軸用なのだ。おでこの広い女の先生は、いましもりんごの形に、赤いろがみをちぎってみせ、それに緑の紙テープを細くちぎったのを添えてみんなに見せている。

「よし、わかった」

と私は思っ、まずみかんからとりかかった。ようするに丸くちぎればいいので、私は手もなくみかんをつくってしまった。なかなかうまく具合に丸くちぎれたのである。

ので、私は即座にそのみかんに、ノリをつけて画用紙にペタリと貼ってしまう。

ついで、みかんのへたをちぎると、これまた絶妙にすばらしくカシジの出たかたちにできてしまったので、これもノリをつけてすばやくペタリと貼ってしまう。

周りを見ると、ほかの「こ」もたは、なんだか妙にモタモタと「す」っていて、まだだれも、みかんにもりんごにもなっていない赤い紙とオレンジの紙にしがみついている。

私はトクイになら、「りんご」の部にうつった。りんごはみかんと異なると、やや形が複雑である。軸のついているあた



南 伸坊(みなみ・しんぼう)
1947年東京都出身。東京・四谷の美術学校卒業。'72年青林堂に入社、『ガロ』の編集長を7年間務める。'80年よりフリー。著書に『本人の人々』『装丁』『笑う写真』など多数。路上観察学会会員。

りと、その反対側のあたりを、凹ませないといけない。

元来が凝り性であったのだろう。私は「の、りんごらしい形」に拘泥した。どうもなかなか、気に入った具合にちぎれてくれないのだ。納得のいくまで、私はちぎりにちぎったのだが、結果としてりんごは、みかんにりんごらしくちぎれたのである。

だが、あまりに追求したために、りんごはひどく小さくなっていった。対して、既に解決して、ヤマト糊で貼り込み済みのみかんは、相対的に、バカにでかいようなことになってしまったのだ。

たとえていうなら、ボンタンとレモン「の」ようになった。私はこの「傑作」によって家族に大いに受けたのであったが、それはPTAで教室に出かけた母が一斉に貼りだされてあった同じようなりんご「とみかん」の絵の中に、へんなことになった息子の絵を見つけて、大いに笑ってくれたからだ。

紙というところはこんなことを思いだす。

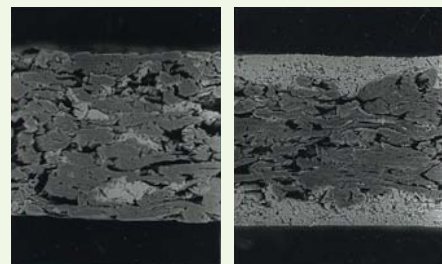
PAPER COLUMN Vol.11

紙のお化粧

雑誌やカレンダー、カタログなどで、鮮やかなカラー印刷のものを見かけます。その鮮やかさの秘密は「塗工紙」にあります。

パルプ繊維の集まりである紙の表面は、凸凹しています。そこで、カオリンなどの白色顔料をおしろいのように塗り、表面を滑らかにしたものが「塗工紙」です。インキのノリが良く、吸収性に優れ、鮮やかなカラー印刷に適しています。このページの紙も塗工紙です。

塗工の技術の進歩とともに、より薄く軽くなり、今では、新聞の折り込みチラシなど、利用分野も広がっています。



非塗工紙の断面図 塗工紙の断面図



次回は4月1日号、加藤登紀子さんです。

提供 日本製紙連合会 <http://www.jpagr.jp>

photo : Yohei Maruyama